

十二月県会から

暮れの十六日から開かれた十二月県会では、給与改訂と認承増となつた国の補助事業等の完全消化や道路の維持補修追加予算が主な事項でした。

〈給与改訂関係〉

国家公務員については、人事院の給与改訂の勧告が行われ国では十月一日からこれを受け入れることになり、地方公務員についても国家公務員に準じて教職員及び公安職員の給与改訂を実施するため経費四億三千二百万円と関係条例が議決され、一般行政職員については、等級別定数の決定等若干の問題があるため一応提案を見送つたが次期県議会に提案し三十五年十月に遡つてこれを実施したいということになつた。

〈補助事業関係〉

県営土地改良事業や災害復旧事業など国から内示を受けた補助事業は完全に消化することし又、夏の干ばつについては本省査定が行われた結果、国庫補助の決定を見たので、これらも併せて国から内示の補助事業全額を消化することになつた。

小児麻痺に対する緊急措置として、新生児三万人を対象に積極的にワクチンの

予防接種を推進する経費五百六十八万円が見込まれた。

〈単県事業関係〉

国体を機に本県の道路も相当整備されてきたので今後とも継続して維持補修する経費などあわせて約四千五百万円を計上して道路の維持補修と災害復旧を進めることになつた。

このほか九月県議会から継続審議されていた県有財産管理条例が本議会で議決されたのでこの主旨に従つて、今後の県有財産の適切な管理に努力することになつた。

なお、人事関係では、副知事に沢田氏（総務部長）が選任された。

（財政課）



〈沢田副知事〉

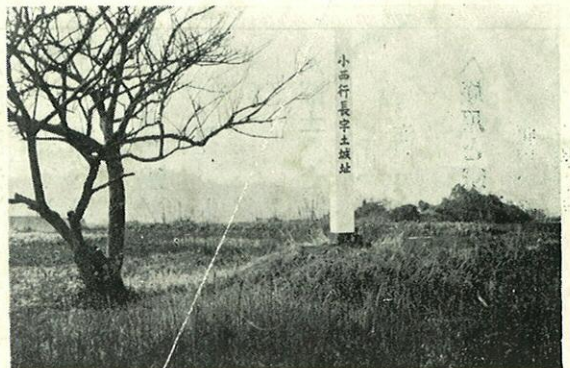
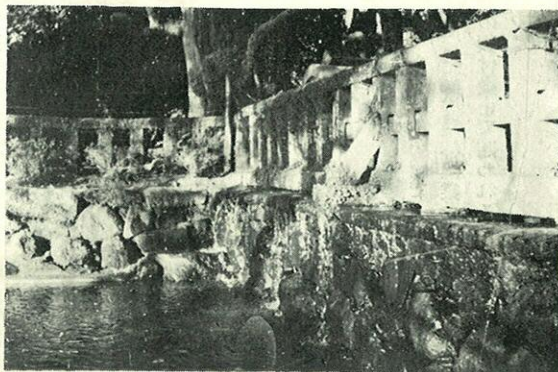
下益城郡小川町小川の出身で、京大卒昭和二十二年に熊本財務局から県庁に入り、三十年六月まで総務部県民課長を経て振興局長、兼電気局長を勤め、第一次、第二次県産振計画のブレーンとして活躍。その後九州地方建設局総務部長へ転出。三十四年二月県総務部長に就任しこのたび副知事に選任。ことし三十九歳で、副知事としては全国最年少である。

郷土文化めぐり

〈宇土市〉

宇土城址

初期の宇土城は平安末期に西岡台に築かれたといわれているが、築城者は明らかでない。天正十六年、宇土、益城、八代の三郡（二十四万石）を領するに至つた小西行長は、初期の城では防備に遺憾の点が多かつたので、翌十七年（一五八九）城山に修築をすゝめたが、慶長十七年（一六二二）六月幕命により遂に破却されるに至つた。宇土城は、一般には「鶴の城」と呼ばれ、後世初期の宇土城と区別する為「小西の城」ともいう。



土城の天守閣を移築したものだといわれている。

轟 泉 水 道

市の中心から西に三キロ、陽白山麓にある轟水源は、肥後三名泉の一つ。こゝを源とする轟泉水道は、一六四六年第二代宇土支藩主細川行孝により作られた。

低湿地で以前海底であつた宇土は、飲料水に悩まされ、清水の豊富に湧き出でてなされた。直径約二十センチ長さ四十五メートルの不知火焼の土管を連ね、平均勾配四百分の一を以て自然流下させた。約百二十年后、土管の破損が余りに甚だしくなつたので、六代興文（月翁）は、明和六年（一七六九）一大改修を行ない、今日に至つてゐる。

（宇土市教育委員会）